

(様式4)

エイズ治療拠点病院医療従事者 海外実地研修報告書

1 研修参加者

所属病院名：国立病院機構仙台医療センター

職名：歯科口腔外科医長

氏名：長坂 浩

2 研修日程：

2014年11月1日～11月16日（サンフランシスコ）

3 研修の内容

- 11月1日 午前 現地到着、午後 オリエンテーション、カストロ地区散策
- 11月3日 午前 UCSF Prof. Feldmanによる講義1：UCSFの大学、医学部、附属病院、総合診療内科と自己の紹介
- 11月3日 午後 UCSF Masamiさんの講義：研修プログラム説明、各自の発表テーマを決定、アメリカの医療システム、カリフォルニア州の医療システムについて
- 11月3日 夜 ホテル 映画「And the Band Played On（運命の瞬間／そしてエイズは蔓延した）」Video鑑賞
- 11月4日 午前 UCSF 口腔顎顔面外科 Morning Conference聴講：レジデントによる稀あるいは複雑な口腔外科疾患について3症例の報告、同科Morning Grand Rounds聴講：眼科医による講義「外傷性失明について」、同科Prof. Brian Bastによる口腔外科外来とDental Implant Centerの案内、Dr. Molly NewlonによるUCSF 歯学部の案内と講義「UCSF歯学部における感染対策について」
- 11月4日 午後 UOPを訪問 学生による歯学部および附属クリニックの案内と教育カリキュラムについて、同大学口腔顎顔面外科Prof. Anders Nattestadによるクリニックの案内と研修システムについて、Dr. Boghossian によるHIV感染患者のデンタルインプラント手術（インプラント前の骨増量術）見学
- 11月5日 朝 SFGH HIV/AIDS Morning Grand Rounds聴講
- 11月5日 午前 Richard Cohen Residenceを訪問：registered nurse(RN), トリーシャさんによる案内、薬物濫用・HIV末期患者の無料住居施設、入居者は、食事、外出、服薬のサポートや体調管理、メンタルヘルスケア、急変時の対応まで幅広いサービスを受ける
- 11月5日 午後 UCSF Prof. Feldmanによる講義2：HIVの疫学と歴史、サンフランシスコでの予防法について
- 11月6日 午前 Dr. Edelsteinによる講義：カストロ地区の先生の自宅でHIVプライマリケアの現状と臨床実態を質疑応答で学ぶ、服薬アドヒアランス向上のためのコミ

コミュニケーション方法、HANDについて

- 11月6日 午後 UCSF GayでHIV感染者 Daz Griegoと面談：Performance をビデオで視聴、MSMでコンドーム無しのセックス、HIV感染の衝撃と不安、パートナーへの怒りと自己嫌悪、薬物依存、うつ病、ART療法の副作用（顔面脂肪萎縮や眼の黄染）と治療拒否について
- 11月7日 午前 Lyon Martin Health Clinicを訪問、LesbianとTransgenderに対してプライマリケア、予防的ヘルスケア、精神的ケア、HIVサービスを提供、同施設 Elizabeth Sekara, RNによるTransgenderについての講義：社会的あるいは医学的な性転換方法について
- 11月7日 午後 UOP歯学部の見学、学生による案内と同学生が担当する患者の歯科診療を見学：Standard Precautionを遵守した口腔ケアの実際
- 11月10日 午前 SFGH Betty Dong, Pharm D による講義：HIV/HCV 合併感染ではHCVの治療が緊急の問題で最新のHCV治療薬の有効性について、1日1回1剤のART療法、PrEP、最新の抗HIV薬（注射薬）について
- 11月10日 午後 UCSF Prof. Feldmanによる講義3：HIV/AIDS患者に対する診療、療養指導のあり方、行動変容について
- 11月10日 夜 ホテル Damon Johnson, MSWによる講義：「HIV感染+ホームレス+精神保健障害+無職+家族支援なし」のアフリカ系患者を対象に社会復帰に向けた包括的な支援、刑務所内にも出向くなど出張型の支援を展開、HIV患者の高齢化に伴う認知機能障害について
- 11月11日 午前 LGBT Community Centerを訪問、24歳以下の青少年と老人を対象とする施設、David Gonzalez, Children Youth & Families Programs Managerによる講義：Lesbian/Gay/Bisexual/Transgenderの若年者は家族、社会から断絶・孤立し、薬物乱用に逃避しやすいためHIV感染の危険性が高まる、まず住む場所と働く場所を手助けし、医療サービスを手配しながら患者が自身を防衛し自己形成できるネットワークを構築させる、若年者を対象とするPrEPの有効性について、交流会の定期的開催
- 11月11日 午後 自習
- 11月12日 朝 SFGH HIV/AIDS Morning Grand Rounds聴講
- 11月12日 午前 SFGH Guy Vandenberg, HIV specialistによる講義：HIVに関わる歴史、30年間の自身の活動歴、アフリカでのHIV医療活動、ART療法を受ける世界中の患者や囚人・薬物依存者・セックスワーカー・ホームレスなど特殊な立場の人に対するコンサルタント、SFGHにおけるHIVプライマリケア、妊婦に対するPrEPの有効性について、Ward 86視察
- 11月12日 午後 UCSF HIV感染者のAさんと面談：HIV感染、薬物依存、瀕死の状態から回復した経験談とそれに対する質疑応答、Community social services for HIVについて、National AIDS Memorial Groveを訪問
- 11月13日 午前 自習
- 11月13日 午後 Tom Waddell Urban Health Clinicを訪問、ホームレスを対象に診療している公的医療施設、Dr. Barry Zevinによる講義：HIV感染に糖尿病、アルコール依存症、薬物中毒、精神疾患、性感染症などを合併する複雑な患者を2-3例挙げ、質疑応答形式で、HIV治療の導入法、治療継続の難しさ、治療成功への道、チーム医療の重要性を討論、同クリニックに併設するDental Clinicも視察

- 11月13日 夕方 Mission Neighborhood Health Centerを訪問、ヒスパニック患者を対象、Dr. Joanna Evelndによる講義：全米トップの抗HIV薬アドヒアランスを可能にしているチームアプローチの現状について、同センターのHIVチームミーティングにも参加
- 11月14日 研修生の発表会と卒業式、自身は「HIV感染とともに美しく歳を重ねる」をテーマに、HIV感染者の歯科的審美回復治療やTransgenderの女性化顔面骨手術を紹介し、質疑を受けた。

4 研修の成果・感想

私は、HIV・AIDS治療ブロック拠点病院の歯科医師として今回の研修に参加しました。日本におけるHIV歯科医療を整備する研究班の活動を通して、かつては致命的病気とされていたHIV感染症・AIDSは治療薬の進歩によって患者の生命予後が著しく改善され、HIV感染者の多くが抗HIV薬を飲み続けることによって通常の社会生活を送られるようになったことを知りました。一方、予後改善によりHIV感染者の長期生存と高齢化が進み、がん、糖尿病、心臓・脳血管疾患、骨粗鬆症、認知症、歯科疾患などの合併が新たな問題となっており、HIV感染者に対する総合的あるいは包括的支援の必要性が指摘されるようになりました。そこで、本研修の参加目的は、死の病であるHIV感染症と闘ってきたサンフランシスコにおける医療歴史と現状（臨床現場）に直に触れ、歯科領域の感染予防対策における日本との差異を学び、高齢化するHIV感染者の歯科・口腔疾患の実態を知り、新たな歯科的対応や治療法を探ることでした。すなわち、HIV診療に関わる歯科医師としての未熟性を見つめ直し、専門性を深めようという思いでした。

アメリカのHIV・AIDS医療については、講義あるいは様々な医療機関や療養施設の訪問を通して、1. HIVに有効なワクチンはなく、新たな感染は高率に続いている、2. HIV感染者の早期発見/早期診断のため口頭によるオプトアウト方式でHIV検査が行われ、医療機関の積極的検査が重要である、3. HIV感染は心筋梗塞、脳梗塞、悪性腫瘍や腎不全などのリスクを増大させる慢性炎症性疾患である、4. 感染が分かった時点でARTが開始される、5. 服薬の簡便さと服薬アドヒアランスを維持するため1日1回1錠の薬剤が開発使用されている、6. HIVおよびHCV合併感染者に対する抗HCV新薬の有効性が示されている、7. HIV感染のリスクが高い人に対して経口ARV薬を予防的に毎日服用させるという暴露前予防投与（PrEP）が推奨されている、8. 長期間の抗HIV薬投与が加齢進行、認知症、血管病変、腎不全、糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症、うつ病のリスクを増大させるなどを学ぶことが出来ました。

サンフランシスコにおけるHIV感染者の歯科医療に関しては、参加した歯科医師用にUCSF歯学部感染対策の講義とUCSF歯学部外来、UOP歯学部外来およびHomeless対象のTom Waddell Urban Health Clinic歯科外来を見学する機会を設けて頂きました。渡米前の日本では、HIV感染者の歯科診療拒否や歯科用ハンドピース等の滅菌不備が報道され、歯科院内感染対策の啓発が強調されていました。ブロック拠点病院仙台医療センターの歯科外来ではStandard Precautionの実施に十分心掛けているところですが、サンフランシスコの歯科診療現場で注目した点は、1. 術者は手首まで覆うガウン（患者毎か半日毎の交換）、ゴーグル、ヘッドライト、拡大鏡を常時着用している、2. 患者さんの眼もゴーグルで保護している、3. 眼の洗浄器を診療室内に設置している、4. 歯科ユニットにスピットン（患者含嗽用シンク）が無い、5. 歯科ユニットのヘッドレスト、背板、ライト、診療テーブル、術者およびアシスタントの切削器具ホース・吸引管・スリーウエイシリンジをビニールカバーし（ラッピング）、患者毎に交換している、6.

処置内容に合わせた各種器具セットを用意し滅菌、印象用材料や器具等はディスポ製品を使用している、7. 手洗い、手袋交換、擦式消毒用アルコール製剤の使用を徹底しているなどでした。

HIV感染者の高齢化に伴う歯科・口腔疾患の実態については今回の研修で詳細に調査することはできませんでした。しかし、HIVを診る医療担当者からは、免疫不全状態における口腔カンジダやカポジ肉腫は言うまでもなく、白板症などの前癌病変や口腔がんならびに悪性リンパ腫の発症、口腔性交による口腔粘膜疾患やHPV感染の伝播を指摘されました。HIV感染者に発症した口腔悪性腫瘍はUCSFやUOPの大学病院口腔顎顔面外科で通常のがん患者と同様に扱われているとのことでした。HIV感染者は非感染者よりがん発生率が高いとされており、歯科医師は口腔がんのスクリーニング検査や早期発見に重要な立場にあると認識させられました。

私は日本の口腔外科専門医として口腔インプラント手術や顎矯正手術を主に担当し、口腔顔面領域の審美的障害を主訴として外科的改善を希望する多くの患者さんに対応してきました。顔貌コンプレックスは他人とのコミュニケーションにおける心理的障害となり、友人や社会からの孤立を増大させる要因になりやすいといわれていました。その経験から、社会的マイノリティな存在であるLGBTの人達における顔貌や口元の審美性に対する関心度や顔全体の美しさを向上させる行動様式に強い興味を持っていました。Lyon Martin Health ClinicやLGBT Centerにおける講義の中で、LGBTの若年者は化粧、ヘアスタイル、ピアスなど顔貌を美しく飾る行動を取っていたり、Male to FemaleのTransgenderは本来の性に近づける顔面骨形成手術（顎矯正手術を含む）を受けていたりしているとの紹介がありました。また、薬剤師の講義やHIV感染者の話では、抗HIV薬による顔面皮下脂肪萎縮は患者にとって大きな審美障害となり、服薬アドヒアランスや自己効力感に悪影響を及ぼすので薬剤の変更や美容外科的手術を要するとのことでした。さらに、上顎前歯を失ったHIV感染者が高額なデンタルインプラント手術を受けており、HIVコントロールが良好でかつ経済的余裕があれば一般人と同様に前歯の審美的回復を希望していることもわかりました。日本においても顎矯正手術や矯正治療を希望しているTransgenderや歯科インプラント治療を希望しているHIV感染者が待機しており、今後の治療計画を立案する上で患者ニーズに応える実例として参考にしたいと思いました。Masamiさんからは、HomelessのHIV感染者でも前歯欠損により口元を隠す仕草で会話をしており、見た目を気にしているにもかかわらず経済的に治療を受けられないだけという指摘も受けました。

今回の研修では、日本では関わることが出来ないような様々な施設（ホスピス対象、Transgender対象、若年者LGBT対象、Homeless対象、ヒスパニック対象など）を訪問し、臨床現場の中心的人物から話を伺うにつれ、自分の専門外（歯科領域外）であるHIV感染症という病気に対する理解を深め、疾患だけでなく人を見るという姿勢とHIV・AIDS患者を救いたいという思いに共感させられました。HIV感染者あるいは性的マイノリティの当事者が、自らの問題を克服した経験を生かして患者をサポートする立場についていることも歴史あるサンフランシスコならではの気風と感じました。複雑な問題を抱えるHIV患者を医療担当者1人だけで対応するには、当然限界があります。医師、歯科医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、カウンセラー、栄養士など様々な職種の医療者が必要とされる知識や技術を分かち合い、同じ方向を向いて連携するチームケアが鍵とされていますが、定例のチームミーティングでは患者の問題点を共有し、忌憚なく意見交換できる雰囲気と大切であると感じました。HIV感染症の伝播には人間の性が深く関与しています。特殊な人間の特殊な病気という思い違いが1980年代にエイズを蔓延させたという歴史を見据え、HIV患者に関わる医療者の1人として、人間の多様性を理解し、その特殊性に関心を寄せ、関連性を失わない支援を続けていきたいと思えます。

今回、サンフランシスコ研修に参加することができ、沢山の素晴らしい方々と出会えたことに心より感謝します。この研修で得られた新たな知識、貴重な経験そして言葉にはならない感覚を今後のHIV感染者の歯科診療に生かしていきたいと思います。